

新型コロナウイルス感染症まん延時におけるアンケート調査の実施事例

技術本部 水工部
REPORT 藤平 雅之 技術士(建設部門)



藤平 雅之

概要

本事例の対象箇所では、公共事業継続の妥当性評価を行う事業再評価のため、地元住民や観光客に対してCVMによるアンケート調査が行われてきた。しかし、近年は新型コロナウイルス感染症のまん延により、他者との接触が憚られる事態となった。そうした状況下で、アンケート調査を行い、問題なく完了することができた。本稿ではその実施事例を紹介する。

キーワード ◎CVM ◎アンケート調査 ◎新型コロナウイルス感染症対策 ◎地元スタッフの活用

1. はじめに

本事例は、根室振興局管内のN半島において、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のまん延が始まった令和2年に、CVM（仮想的市場評価法）によるアンケート調査を行ったものである。なお、CVMは定量的に測れない価値をアンケートにより金額化するものである。

2. アンケート調査の概要

アンケートは、観光地周辺の保全を目的とした公共土木工事の経済的価値に関するもので、対面方式と郵送方式の2つの方法で行った。

対面方式は目標サンプル数を300人とし、観光地で観光客を対象として行った。

郵送方式は1,500人を目標サンプルとし、地元住民へアンケート用紙を送付し回答の上、返送してもらう形式で行った。郵送にあたっては、観光地近隣の3つの町役場で住民基本台帳を閲覧し、住民の氏名や住所を転記する必要があった。

3. アンケート調査の実施における課題

新型コロナウイルス感染症がまん延する中で、アンケート調査を行うためには以下の2つの課題があった。

(1) 対面方式におけるサンプル数の確保

1つ目の課題は、対面アンケートの対象者である観光客が激減する状況で、目標のサンプル数をいかに確保するかということであった。

アンケートを実施した令和2年は、北海道を含め全国で新型コロナウイルス感染症による初めての緊急事態宣言が発令され、各地で観光客が激減していた。アンケート実施時には、北海道では緊急事態宣言は解除されてい

たものの、引き続き観光客の減少傾向が想定された。実際に、この年の当該観光地を含む根室振興局管内への観光客の入込数は概ね半減している（図-1）。



図-1 新型コロナウイルス感染症による観光客の減少¹⁾

(2) アンケート調査の安全・安心な実施

2つ目の課題は、アンケート調査を安全・安心に実施することで、新型コロナウイルスの感染および拡散をいかに防ぐかということであった。

対面アンケートでは、会話やアンケート用具の受け渡しなど他者との接触（密接）や、換気の悪い場所での実施（密閉）、アンケート回答者が多数集まること（密集）の3密が生じることが懸念された。

郵送アンケートでは、町役場での住民基本台帳の閲覧に3人で3日程度かかるが、換気のできない狭い部屋での作業（密閉・密集）が生じることが想定された。

また、観光客が感染のリスクを懸念してアンケートを拒否することも懸念されたため、安心してアンケートを行ってもらえるように配慮する必要があった。

4. 対策の立案と実施

(1) 対面方式におけるサンプル数の確保

アンケート実施時期は、事前の緊急事態宣言の発令により、ツアーなどの団体旅行が激減していた。このため、アンケートの対象者を個人旅行者とした。例年の観光客

入込数は8月が最も多い（図-2）ことや、個人旅行者にとってお盆時期が長期休暇を取得しやすいことから、8月のお盆時期に集中してアンケート調査を行い、サンプル数を少しでも多く確保することとした。

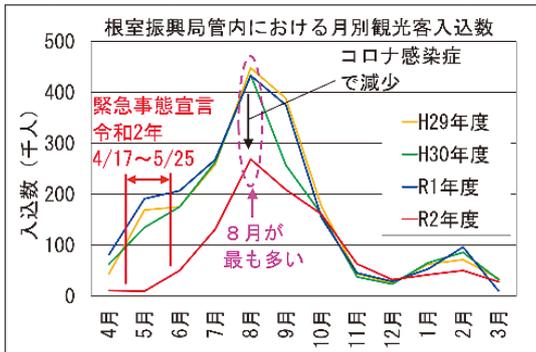


図-2 根室振興局管内の観光客の月別入込数¹⁾



写真-2 消毒の徹底

②郵送方式での対応：地元スタッフの活用

住民基本台帳閲覧時は、3密の回避が行えないことを想定し、感染者の少ない地元のスタッフを閲覧者とした。これにより、感染者の多い札幌からスタッフを派遣させることを避け、感染拡大リスクの低減を図ることとした。

(2) アンケート作業の安全・安心な実施

アンケートを安全・安心に実施するために、3密の回避など感染防止対策を実施し、感染リスクの低減を図った。

①対面方式での対応

(ア) 密接の防止：感染防止装備の着用

密接の防止には十分な距離（2m以上²⁾）をとる必要があるが、アンケート調査の際は実施者と回答者の間では十分な距離の確保は難しい。このため、マスク（不織布）、フェイスガード、ビニール手袋などの感染防止装備の着用を徹底し、飛沫の拡散や他者との接触を防止した。



写真-1 感染防止装備

(イ) 密閉・密集の防止：換気、間隔の確保

密閉の防止には定期的な換気（1時間に2度以上²⁾）、密集の防止には十分な距離（2m以上²⁾）をとる必要がある。このため、アンケート実施時は換気が不要な屋外で実施した。やむを得ず屋内で実施する場合は、ドアや窓を常時開放し、アンケート記載時の回答者同士の間隔を確保するなど、密閉や密集状態とならないよう配慮した。

(ウ) その他の対策：消毒の徹底

ペンやボードなどは使用すごとに消毒を徹底した。また、回答者にアルコールスプレーやアルコールシートを提供し、アンケートの前後で消毒を実施した。

5. 結果

アンケートを実施した令和2年8月は例年に比べ観光客が大幅に減少していた（図-2）。当所の想定通り、大型観光バスによる団体ツアー客は皆無であったため、来場の多い自家用車やバイクでの個人旅行者を対象とすることで、所定のサンプル数を確保することができた（写真-3）。



写真-3 駐車場の状況

また、感染防止対策の徹底により、アンケート調査による感染や拡散は生じなかった。さらに、感染防止対策を行っていたことで観光客の感染症を理由としたアンケートの拒否もなかったと思われる。以上のことからアンケートを安全・安心に実施することができたと判断した。

6. 終わりに

本事例実施時は新型コロナウイルス感染症への知見も少なく、前述の対策も手探りで行った。現在では目新しいものではないが、引き続きアンケート調査を実施する際には配慮を続ける必要がある。本稿がその一助となれば幸いである。

〈参考文献〉

- 1) 北海道根室振興局HP：『行政情報(観光入込客数)』平成29年度分～令和2年度分
- 2) 厚生労働省HP：『3つの密を避けるための手引き』